

資料館だより

2022年 春号

contents

- イタイイタイ病を考える県民フォーラム… 1
- 館長あいさつ …………… 1
- 四大公害病の語り部講話を聴く集い………… 2
- 語り部グループが地域社会賞受賞………… 2
- インフォメーション …………… 2

令和4年2月20日 イタイイタイ病を考える県民フォーラム



月岡中学校の生徒が発表



県立大学看護学部 母性看護学ゼミの学生が発表



稲寺秀邦教授が特別講演

2月20日(日)に「イタイイタイ病を考える県民フォーラム」を開催しました。新型コロナウイルス感染予防対策を講じたうえで、会場とオンラインを合わせて42人の方に参加していただきました。蔵堀副知事の挨拶の後、次代を担う若者たちによる発表では、富山市立月岡中学校の生徒2名が海の環境や水資源について学習した成果を発表し、「海洋汚染の問題はイタイイタイ病と共通している」「安全な水が世界中に届けられるようにできることから取り組みたい」と訴えました。次に、富山県立大学看護学部母性看護学ゼミの学生3名は、「正しい情報が共有されずイタイイタイ病の被害が女性に拡大した教訓は、現代の女性支援にも通じる」とし、悩みを抱え込まない環境づくりが必要と指摘しました。発表後には、飯田館長が当資料館の今年度事業報告をしました。

フォーラムの後半は、富山大学医学部の稲寺秀邦教授に「環境と健康～医学との関わり～」の演題で特別講演をしていただき、参加者は熱心に耳を傾けていました。

参加者の声

今回のようにイタイイタイ病を風化させず、新たな世代へつないでいくことが大切と考えました。(会場 大学生)

大学生の報告は、イタイイタイ病から現在の女性の地位を結びつけた発想が素晴らしいと思いました。(会場 60歳代)

若い方々がイタイイタイ病に関心を持っていただくことはとても良いことと思います。(会場 60歳代)

手軽に遠隔で聴けるので、オンライン聴講も続けていただけるといいです。(ZOOM40歳代)

富山県での公害に理解が乏しいと反省し、エコチル事業についても興味があり参加させていただきました。(ZOOM50歳代)

開館10周年を迎えます



2021年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、2020年度に続き来館者は減少しましたが、定例のイベントを開催することが出来ました。「春の特別企画展」では、報道がとらえたイタイイタイ病をテーマに新聞報道をパネルにして展示、元富山新聞社記者小川輝久氏にご講演をいただきました。「夏休み自由研究講座」では、イタイイタイ病の学習後、朴木英治薬学博士のご指導により、酸性雨の水質調査を行いました。秋の「四大公害病の語り部講話を聴く集い」では、水俣、新潟、四日市と当資料館をオンラインでつなぎ、それぞれの語り部講話を聴き感銘を受けました。講話後、公害病をいかに語り継いで行くか、オンライン講話による公害の語り部活動をテーマに意見交換をしました。

今年2月20日の「イタイイタイ病を考える県民フォーラム」では、次代を担う富山市立月岡中学校の生徒さん、富山県立大学看護学部母性看護学ゼミの学生さんに、素晴らしい学習成果

富山県立イタイイタイ病資料館 館長 飯田博行

を発表していただきました。特別講演では富山大学医学部公衆衛生学稲寺秀邦教授に、「環境と健康～医学との関わり～」と題して分かりやすいご講演をいただきました。今年度のイベントはどれも有意義だったと思います。

当資料館は2012年4月に開館しましたので、今年開館10周年を迎えます。これまでに延べ26万人余りの来館者を迎え、イタイイタイ病の悲惨な被害とその克服の歴史、環境と健康の大切さを学んでいただきました。また、今年はイタイイタイ病裁判2審で患者側が全面勝訴してから50年の節目の年にあたります。2011年度までに汚染農地の土壌復元事業が終わり、被害住民等による神岡鉱山への立入調査は50回を数えました。

当資料館設立の趣旨はイタイイタイ病の関係資料を収集・保存し、活用・展示して貴重な教訓を後世にしっかり伝え、国内外に向け情報発信することです。その原点を踏まえ、イタイイタイ病が風化することのないよう、今後も資料館としての使命を果たして参ります。多くの皆様のご来館、ご利用をお願いいたします。

四大公害病の語り部講話を聴く集い

令和3年10月9日(土)、四大公害病の公害被害と教訓を後世に語り継ぐ『四大公害病の語り部講話を聴く集い～語り部による伝承会～』を開催しました。コロナ禍の影響で2年ぶりとなった今回は、会場参加とインターネット配信視聴のハイブリッド方式としたところ、合わせて約70名の参加がありました。各資料館をオンラインでつなぎ、県外の語り部3人の方にもリモートで参加いただきました。

「水俣市立水俣病資料館」の滝下昌文さんと「新潟県立環境と人間のふれあい館」の水澤洋さんは、自身の病状や差別に苦しんだ日々を振り返りながらそれぞれの経験を語られ、「四日市公害と環境未来館」の谷田輝子さんは、亡くなった家族への思いを話されました。

主会場の「富山県立イタイイタイ病資料館」では小松雅子さんが病気に苦しんだ祖母の思い出や被害者団体初代会長として被害住民の救済に立ち向った父の活動について講話されました。

集いの後半は、4人の語り部のほかに、イタイイタイ病対策協議会会長の高木勲寛さんと当資料館の飯田館長が加わり、「オンライン講話による公害の語り部活動」をテーマにリモートで意見交換を行いました。オ



4人の語り部さんとパネリスト



オンラインで意見交換

ンライン講話で相手に上手く伝えるための工夫や今回のリモート参加で感じたことを4人の語り部にお尋ねしたところ、「スライド映像にテロップの字幕を付ける」、「聴講者の表情が見えるよう相手側映像の送信をお願いする」などのアイデアや「会場へ来られない方への発信の一つとして、オンライン講話は大変意義がある」、「是非、今後もこのような機会を設けていただきたい」などのご意見がありました。また、会場参加の語り部からは「生の声で伝えることの重要性」を訴える声もありました。最後に、高木さんから「公害を繰り返さないためにも、語り部にはあったことを正確に伝えていく責務がある」との総評をいただき集いを閉会しました。



主会場で講話される小松雅子氏

参加者の声

一度に多くの方のお話しが聴けてよかった。オンラインでも伝わることもある。(会場50歳代)

各地それぞれに語り継がれることがあり、語り部にもそれぞれの体験談があるので、毎年交流を続けることに意義があると思う。(会場60歳代)

オンライン開催になり初めて参加できました。四大公害は今でも人々を苦しめていることを理解できました。(ZOOM40歳代)

病気になった方や周囲の方の苦しみがとても壮絶に感じ、これを自分の中で昇華させ、自分でも何かできることがないか考えます。(ZOOM30歳代)

資料館インフォメーション

春の特別企画展

『カラーで甦るイタイイタイ病の記憶』を開催します！

日時：4月23日(土)～5月8日(日)

場所：イタイイタイ病資料館 <見学無料>

資料館語り部グループが北日本新聞社 地域社会賞を受賞



代表して4人が受賞式に出席されました

令和3年11月2日(火)、地域発展や福祉の向上に貢献された各界の個人や団体の功績をたたえる北日本新聞社文化賞等贈呈式が行われ、県立イタイイタイ病資料館の語り部グループが地域社会賞を受賞されました。10人の語り部の中から4人の方が式に出席され、代表の高木良信氏に賞状と副賞が贈られました。

令和3年度下半期の行事経過

令和3年

10月9日(土) 四大公害病の語り部講話を聴く集い

12月1日(水) 語り部 研修視察

令和4年

2月20日(日) イタイイタイ病を考える県民フォーラム

令和4年度上半期の行事予定

4月23日(土)～5月8日(日)

春の特別企画展

『カラーで甦るイタイイタイ病の記憶』

6月下旬 語り部・解説ボランティア研修会

7月下旬 夏休み自由研究講座

8月上旬 イタイイタイ病を学ぶ日帰りバスツアー

8月下旬 イタイイタイ病資料館活用研修会

※詳細については、資料館ホームページ等でお知らせいたします。

課外学習サポート事業の利用校募集のお知らせ

令和4年3月25日(金)より募集を開始します!!

新年度も多くの児童・学生にイタイイタイ病について学んでいただくため、学校等に「無料送迎バス」を提供する「課外学習サポート事業(環境省委託)」を実施します。

資料館への送迎は、これまでと同様に、学校や県内施設を起点・終点として実施します。また、近接した「四季防災館」を見学する場合は無料区間が延長され、利用しやすい内容となっています。

利用条件など詳細については、資料館へお問い合わせください。

メールマガジン登録者募集中

資料館の最新情報などをお伝えるメールマガジンを配信しています。配信を希望される方は次のメールアドレスあてにメールを送信してください。
【mlhope@itaitai-dis.jp】